4 ふくとう

眼科と歯科の定期的な受診をお勧めします

福井中央クリニック　笈田　耕治（福井県糖尿病協会 前会長）

昨年度をもちまして会長を退きました。これまで会員の皆様には大変お世話になりました。今年度からは、事務局も福井大学医学部附属病院に移動し、原田範雄新会長のもとでの福井県糖尿病協会の更なる発展を祈念しております。



さて、昨年頃、福井県の糖尿病通院患者さんの眼科受診率が最下位であるとの話が舞い込んでまいりました。その根拠は、文献1と文献2によるもので、文献1は2015年度、文献2は2017年度のレセプト（診療報酬明細書）のデータに基づいた報告です。いずれの報告でも、年に1回以上眼科を受診している糖尿病患者さんの割合は福井県が一番低く(38%)なっていますので、「たまたま」のワーストではなさそうです。また、日本全体でみても、年1回以上の眼科受診患者さんは50%に達していません。

ご存知のように、糖尿病は「合併症」の病気とも言われます。糖尿病特有の合併症は「しめじ」の語呂合わせで示される神経症、網膜症（め）、腎症と、「えのき」の語呂合わせで示される下肢の動脈閉塞症（えそ）、脳血管障害、心血管障害（きょうしんしょう）が代表的です。糖尿病網膜症による視力低下は、網膜の血管が損傷・出血したり、黄斑部にむくみ（黄斑浮腫）が生じたりすることで「突然」起こります。進行すると失明に至る恐れがあるため、自覚症状がなくても定期的な眼科検診（眼底検査）の上、早期の治療が必要です。特にHbA1c7%以上が長く続いている方は、要注意です。早期発見、早期治療のために是非とも眼科検診を受けましょう。成人の中途失明の原因は、その他にも緑内障、網膜色素変性症などがあります（図）。また、水晶体が混濁することで視機能が低下する白内障は60歳以上では70%以上とも言われています。眼科の定期検診によりこうした疾患の早期発見にもつながります。

一方、糖尿病と歯槽膿漏（歯周病）は、「一方が悪化するともう一方も悪化する」という深い相互関係があります。糖尿病の人は免疫力低下や唾液減少で歯槽膿漏になりやすく、重症化した歯槽膿漏は炎症物質を出してインスリンの効きを悪くし、血糖コントロールをさらに悪化させます。したがって、糖尿病と歯槽膿漏の同時ケアが非常に重要です。歯槽膿漏の治療（歯石の除去や正しいブラッシング）をしっかりと行うと、口の中の炎症が治まり、インスリンの働きが改善して血糖コントロール（HbA1c）が良くなることが実証されています。その効果は、新しい糖尿病の飲み薬1剤分に匹敵するとも言われていますので、歯科の定期的な受診も重要です。

文献1　Sugiyama T, et al. Diabetes Res Clin Pract. 2019;155:107750.
文献2　Ihana-Sugiyama N, et al. J Diabetes Investig 2023; 14: 883–892

中途失明の原因（成人）

